

# 市民一丸となって子育てに取り組む 「きくち子育て応援隊」の創設

吉田 茂<sup>1</sup>・高柳 勝郎<sup>2</sup>・西山 美紀<sup>3</sup>・横枕 大樹<sup>4</sup>・吉田 真理子<sup>5</sup>

<sup>1</sup>菊池市役所 教育委員会 生涯学習課

<sup>2</sup>菊池市役所 建設部 下水道課

<sup>3</sup>菊池市役所 旭志支所 市民生活課

<sup>4</sup>菊池市役所 七城支所 市民生活課

<sup>5</sup>菊池市役所 健康福祉部 福祉課

核家族化が進む中、子育ての孤立化や、児童虐待、経済的理由による教育格差、朝食を欠食している児童、子育てが母親や学校まかせになっている社会構造など、子育て世代にとって、菊池市が子育てしやすい環境にあるとは言えない現状にある。

地域の宝である子どもたちを、地域で育てていくため、市民一丸となって子育てに関わることで、子育て世代を応援する必要があると考える。

そこで、市内のあらゆる各団体が参画し、地域住民を巻き込みながら、子育て世代に対する支援を行う、子育て応援ネットワークの創設を提案したい。

## 1. 政策提言の背景

我が国は急速な少子高齢化の進行により、労働力人口の減少や社会保障負担の増加、地域社会の活力低下など、社会・経済への深刻な影響が懸念されている。

本市においても、18歳未満の子どもがいる世帯は、平成12年から平成22年までの10年間で約1,000世帯減少している。子どもを産み育てる可能性が高い20歳代、30歳代の女性も平成21年から毎年右肩下がりで推移しており、平成26年現在で500人ほど減少している。高齢化率の上昇と相俟って、少子高齢化が加速している状況にある。

また、核家族世帯・ひとり親世帯の増加により、核家族化や地域のつながりの希薄化が進み、身近に相談できる相手がいなかった子育ての孤立化や、家庭や地域における子育て力の低下、経済的理由による教育格差などが問題となっている。

さらには、児童虐待や朝食を欠食している児童、子育てが母親や学校まかせになっている社会構造など、子育てを取り巻く環境は厳しい状況にあり、子育て世代に対する支援の充実と、子育てしやすい環境整備を図ることは、喫緊の課題である。

このような中、本市が掲げる安全・安心の「癒しの里」きくちの実現を目指すため、子育て世代が移住・定住しやすいまちづくりに向けて、菊池の豊かな自然と歴史・文化を活かした施策の充実が求められている。

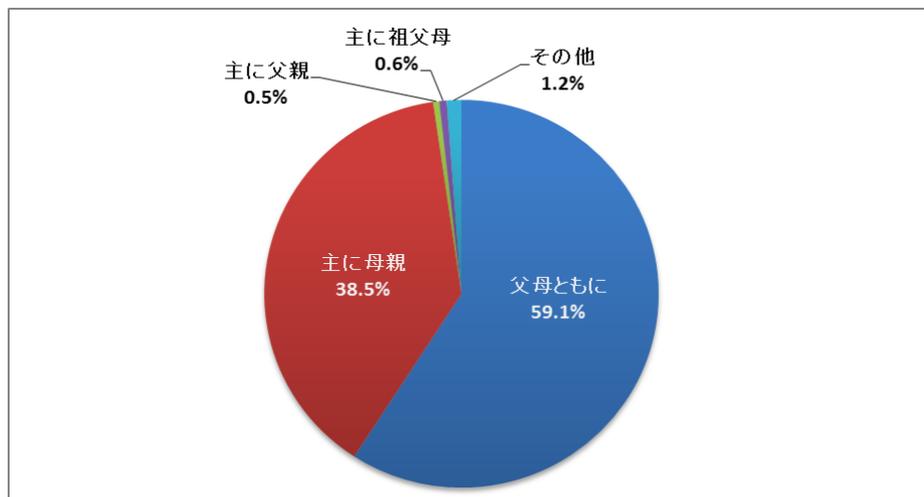
## 2. 政策提言によって解決したい課題

### (1) 子育ての孤立化

平成26年3月に実施した菊池市子ども・子育て支援計画策定に伴うアンケート調査（以下子育てアンケートという。）によると、子育てを主に行っているのは母親の割合が高く、子育てが母親まかせになっていることが伺えるため、父親が積極的に子育てに関われる環境が必要である。子育てについて気軽に相談できない人や、どこに相談したらいいかわからない人、配偶者や祖父母など家族のサポートが受けられないなど、子育てを一人で抱え込んでいる人も多い。

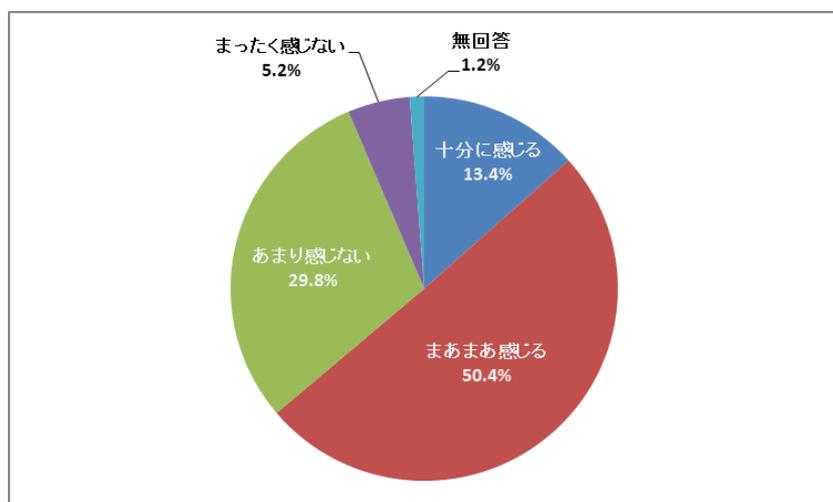
また、子育てが地域に支えられていないと感じている人も多く、子育て世代と地域のつながりが希薄になっていると考えられるため、地域を巻き込んだ子育て支援の取り組みが重要である。

子育てを主に行っている方



菊池市子ども・子育て支援計画策定に伴うアンケート調査（H26.3）

子育てが地域に支えられていると感じるか



菊池市子ども・子育て支援計画策定に伴うアンケート調査（H26.3）

## (2) 経済的理由による教育格差

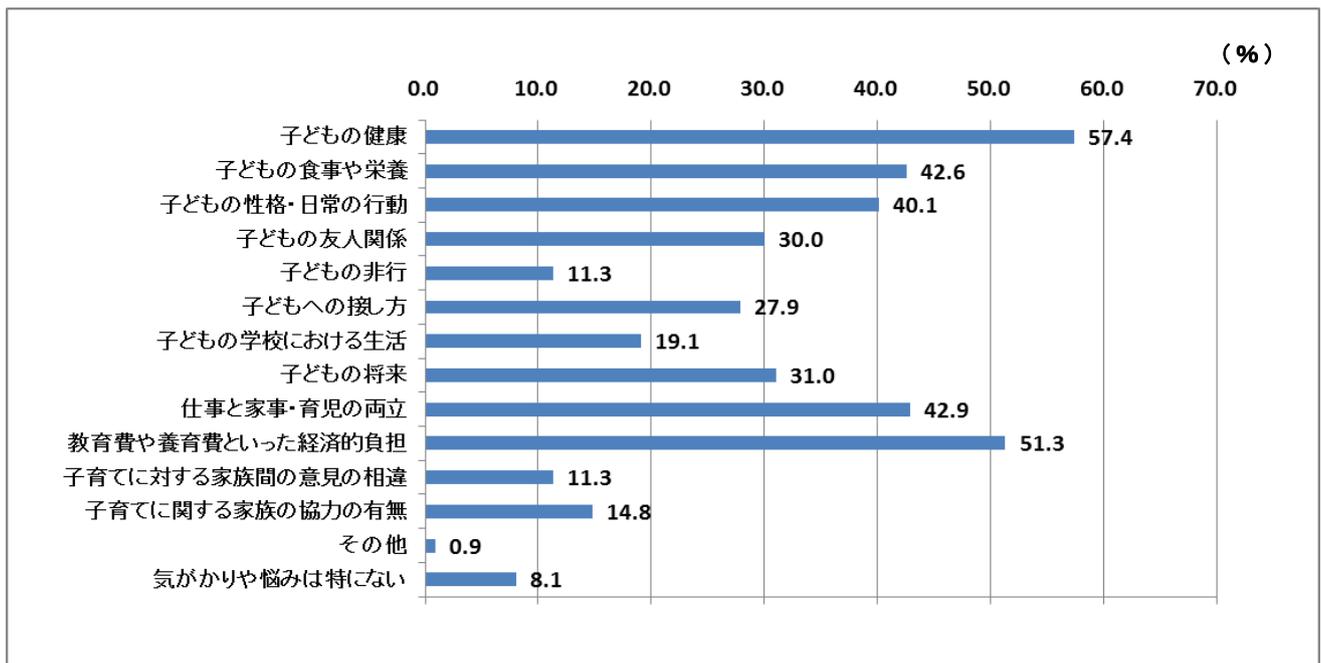
生まれ育った環境により受けることのできる教育に格差が生まれることがある。親の所得格差が子どもの教育費にかけられる費用に直結してしまい、結果として子どもたちの将来に影響を与えてしまうという不平等の連鎖が起きている。今の日本には子どもたちの間に、この教育格差を生み出してしまう構造がある。

子育てアンケートでも、教育費などの経済的負担の悩みが2番目に多いため、教育格差により、教育を受けられない子どもたちへの支援策が必要である。

## (3) 子どもの健康

子育てアンケートによる、子育てについての気がかりや悩みについての質問では、子どもの健康が1番にあげられており、子どもの食事や栄養と合わせて、多くの子育て世代が最も重要視している課題である。本市の基幹産業は農業であり、豊かな自然と阿蘇外輪山がもたらすきれいな水により、国内外に誇れる米やメロン、肉用牛といった食材があるので、これらの地元食材を活かした支援策を提案したい。

子育てについての気がかりや悩み



菊池市子ども・子育て支援計画策定に伴うアンケート調査 (H26.3)

## 3. 課題解決策の特徴, 重要性, 有効性

### (1) 菊池一族子育て応援隊の創設

市民全体で子どもを育てるまちづくりを実現するため、行政、教育機関や各種団体、企業、自治会など市のあらゆる機関が参画する、子育て応援のネットワーク「菊池一族子育て応援隊」を創設する。菊池が誇る菊池一族をモチーフに、市民全てを一族となぞらせ、一族みんなで子育て支援を行っていく。

そのために、ボランティア活動が可能な人材・団体を登録する人材バンクを発足し、きくち子育て応援隊がパイプ役となり、人材・団体と教育機関とのマッチングを行い、子どもの見守りや、地域の伝統芸能の承継、農業や職場体験などに活躍してもらう。

また、多様な子育てに関する意見を集うため、子育て世代だけでなく市民向けの「子育て目安箱」を設置し、子育てに求める支援策について、正直な本音と声を聞く。

さらには、父親が子育てに関われるよう、育児休暇の取得の推進や、定時で帰れるような働き方改革を進めるため、企業などの協力も願います。

## (2) お助けプラン

人材バンクの人材を活用した、公営塾を開設する。経済的な理由などで、塾に通うことができない子どもたちへ、無料で受講することができる塾を開設する。高校や大学入試に必要な学力の向上のほか、ピアノ、体操など幅広い学習の機会を提供する。

また、地元企業などの協力により、市内の子育て世代が有利な条件で買い物やサービスの提供が受けられる特典カードを配布する。菊池市においては、地域市内共通商品券「めぐるん券」が発行されているため、まずは既存の協賛企業に協力を呼びかけ、子育て支援地元企業を増やす。

## (3) 日本一おいしい給食プロジェクト

豊かな自然により育まれた米や野菜など、良質な地元食材を活かした日本一のおいしい給食を提供することにより、地産地消の推進や、生産者や食生活改善推進員協議会による農業体験や調理体験などの食育により、地元食材の知識の向上を図る。

また、家庭の事情により朝食を欠食している児童や、夕食が遅い、コンビニ弁当ばかりなど栄養面が心配される食事環境の子どもたちへ、地元食材を活かした、気軽にいつでも利用できる子ども食堂を提供する。なお、子育てや家事にあまり積極的でない男性を、子ども食堂の運営に関わってもらうよう、男の料理教室の開催など、男性が積極的に協力できる仕組みづくりを行う。子どもたちや高齢者などが一緒に食事を行うことで、そこで生まれる交流を通して、「孤食」を「供食」に変えていく。

子育ての悩みを共有し相談できる地域コミュニティや、菊池の食材を通して「食べること、生きること」を学ぶ食育は、子どもの健やかな心身の成長に繋がる。また、多様な人材を地域から発掘することで、高齢者や地域の人々の生きがいがいづくりに派生すると考えられる。

子どもたちは、地域の人々との交流により、貴重な体験や学習を通して、ふるさと菊池に対する郷土愛が醸成されると期待される。

将来的には、市民一丸となって子育てに取り組むことはもちろん、男性が子育てに参加することが当たり前となり、応援隊のメンバーも男性が多く関わることで、子育て世代のみならず、年齢や性別関係なく、一族みんなで子育てに関わっていく。